

2009年3月14日

中華世界の変容 中国・香港・台湾・マカオのこれまでとこれから

石田収

兩岸4地（中国、香港、台湾、マカオ）

2006年のGDPと一人当たり国民総所得

中国	2兆7000億ドル、	2010ドル、	13億1448万人、
香港	1898億ドル、	2万8460ドル、	686万人、
台湾	3645億ドル、	1万7230ドル、	2293万人、
マカオ	143億ドル、	2万4274ドル、	48万人、

（シンガポール1322億ドル、2万9320ドル）

（日本510兆円、412万5000円）

中国の2008年の数字。2009年3月6日、国家統計局長が発表。

GDP30兆670億元（約4兆3200億ドル）一人当たりGDP3266ドル。

兩岸4地のうち3つは先進国・地域。（シンガポールも先進国）アジアの先進国・地域。

中国の沿海地域の一部（シンセンなど）はすでに先進国レベルに到達した。一部の特区。

シンセンで見える景色。上海で見える景色。上海の印象。60円のラーメン、1時間400円のマッサージ。1泊4500円のホテル。45円の地下鉄。

アヒルの村、乞食の群れ、人間信号機、地下鉄、高層ビル。統治が最も重要。

中国の沿海地域の一部は先進地域に向かっている。

2005年の地域別数字

上海市51474元（約7050ドル）、北京市45444元（約6220ドル）、天津市35783元（4900ドル）、貴州省5052元（約720ドル）

21世紀は中国の世紀か？。巨大な格差。今の中国は国の中に先進国と途上国がある。上海では1000万円もするマンション。巨大な不満。豊かな人は少ない。改革開放に乗った人、利権をあさった人。これでは昔の国民党と変わらない（華国鋒）

中国のこれまでとこれから

これまで

毛沢東の中国と鄧小平の中国

毛沢東の中国（1949 - 1978）

思想重視、専より紅。激しい階級闘争。皆貧しい。人民公社。理想社会。少ない汚職。餓死。社会主義社会。

鄧小平の中国（1979 - 現在）中国はいつか鄧小平理論を捨てられるか。

中国は今も鄧小平理論で運営されている。白猫黒猫論、鳥かご政治論（4つの基本原則）

1つの中心(経済建設)2つの基本点(改革開放、4つの基本原則)、先富論。共同富裕論。社会主義市場経済。社会の雰囲気(完全な資本主義、荒々しい資本主義)、金儲け、利権に走る。「1人得道、鶏犬昇天」。利権社会。何が悪いの。コピー商品。

二者択一を迫られた場合 国益をとるか体制をとるか、社の利益をとるか自分の利益をとるか。体制をとるか経済発展を取るか。

巨大な矛盾

経済社会面 豊かな人と貧しい人。利権を持つ人と持たない人。地域間格差、地域内格差。600万円もするマンション、月給2万円の一般労働者。労働者の300か月分。

(日本の場合、給与30万円で100ヶ月分で3000万円)

人生設計が成り立たない。そもそも人生設計などない。今日を生きるのがやっと。今の中国を支えているのは家族主義。

失業、医療、カラオケ、蔓延する汚職。農村問題。民族問題(チベット問題で妥協せず)

政治面 進まない政治改革。一党支配。社会主義の優位性の崩壊。なぜ共産党が権力を永遠に維持しているのか。愛国主義は愛党主義。愛国主義教育運動。天安門事件。

「今の中国は共産党が作った」(没有共産党、没有新中国)。「共産党がなくなれば中国はめちゃくちゃになる」。ロシアの復活。東欧の発展。説得力がさがっている。

これから

高度成長がどこまで続くか。いつ何か起きても不思議ではない。9のつく年。矛盾の激化。2つの見方。

1、高度成長30年間説。79年-09年。世界金融危機の影響。8%成長の死守。失業増。

2、台湾経験。台湾の3分の1,4分の1までは行く?。香港、台湾経験。台湾の4分の1だとGDPは2006年の倍になる。日本を抜く。一人当たりGDPで5000ドル弱。

中国がGDPで日本を抜く日。一人当たりGDPで5000ドルに達する日。経済発展の恩恵を大きく受けている人は人口の2割程度。あまり受けていない人は5割程度。

「中国人は飯さえくえればぐちゃぐちゃ言わない」。鄧小平のご飯の哲学。

政治的にはどこかで改革に向かう。社会主義思想の放棄。08憲章。国民の意識の問題。

中国共産党は社会主義の理想を捨ててはいない。社会主義初級段階。

党内の3派 改革左派、改革右派、保守派。

胡錦濤はいったい何をしたのか。反対派。次の指導者。習近平か李克強か。

中国は今、時代を切り開く偉大な指導者を必要としている。妥協型ではだめ。鄧理論を否定できる人、共産党を否定できる指導者?。統治が一番、安定が一番。和諧社会はない。

香港のこれまでとこれから

これまで

英国の植民地。水に飛び込む人々。1997年に中国に返還。

何が変わったか。

通貨、切手、軍隊、旗、北京語の氾濫・中国人の殺到、支配者の変化（何も変わらないという宣伝。家は人が変われば中も変わる） 一国両制という名の間接支配。反共勢力（民主派）に香港を渡さない。中国への干渉を許さない。「井戸の水は川の水を犯すな」。水面下での熾烈な戦い。強まる中国との経済的結びつき。日本の後退。

これから

経済的には上海、広州とのライバル関係。経済的には中国との関係強まる。香港が困るのは中国国内の混乱。

政治的には直接選挙をどこまでできるか。

社会的には

愛国意識をどこまで入れられるか。「香港は中国の発展に貢献すべきだ」。自分は何人か。

古い香港人は不要。

台湾のこれまでとこれから

これまで

蒋介石時代、蔣経国時代、李登輝時代、陳水扁時代、馬英九時代。今の雰囲気。

先進国に発展。

進んだ民主化、台湾化。依然ある本省人と外省人の対立。台湾人意識の深化。兩岸関係にはマイナス。中国との関係改善に向かう馬政権。どこで中国と折り合いを付けるか。

中国 一国両制のもとでの統一。和平協定。

台湾 現状維持の中での関係強化。

これから

経済的には中国との関係を深める。中国に滞在する台湾人は100万人を越える。

政治的には兩岸関係の解決への模索。真の話し合い。馬政権がどこまでもつか。「台湾を売りがねない」日米中との等距離。

マカオのこれまでとこれから

これまで

カジノだけののんびりした田舎。香港の発展につれて発展。

1999年の返還後、中国からのカジノ客の増加。

新たな巨大カジノの出現。

これから

カジノバブル、中国の対策。

マカオと香港の違い。中国色が強い。保安条例の制定。